

わたしたちにできる救命処置

通信②

キーワード：救急車・心肺蘇生法

まず、できることをしよう！

たおれている人がいたら、まわりの人と協力しながら、助ける必要があります。^{しんぞう}心臓が止まった状態が長くなると、助かる可能性が低くなります。勇気をだして、自分にできることをやってみることが大切です。何をしたらいいかわからない時、判断にこまった時は、^{きゅうきゅうたいいん}救急隊員に連絡して指示をもらいます。



順番	「あなたが道を歩いていると、道に人が倒れていました。 どの順番で行動しますか？左の空らん、に、1～6の数字を書きましょう。また、()中の言葉を選んで○をつけましょう。
	応援にかけつけた人に、「救急車（110番・119番・118番）を呼んでください」と伝える。 もう一人の応援にかけつけた人には、「AEDを持ってきてください」と伝える。
	まわりが安全か確認してから、たおれている人に近づいて、肩をたたきながら、「だいじょうぶですか？」と声をかける。
	大きな声で「だれかきてください！」と人をよぶ。 学校だったら、なるべく先生や大人をよぶ。
	AEDが届いたら、AEDを使う。 AEDの音声や表示にしたがい、落ち着いて操作する。 AEDを使ったあとは、そのまま、胸骨圧迫を続ける。
	たおれている人の胸やおなかの動きを見て、呼吸の確認をする。 観察は10秒以内で行う。
	胸骨圧迫（心臓マッサージ）をする 胸骨（胸の中央にあるかたい骨）の下半分に両手をあてて強くおす。